

## 第2章

# レポート作成における 資料の種類と選択



それでは、第2章を始めます。

## 課題の目標とメニュー

**目標：レポート作成に必要な資料を図書館で探せるようになる**

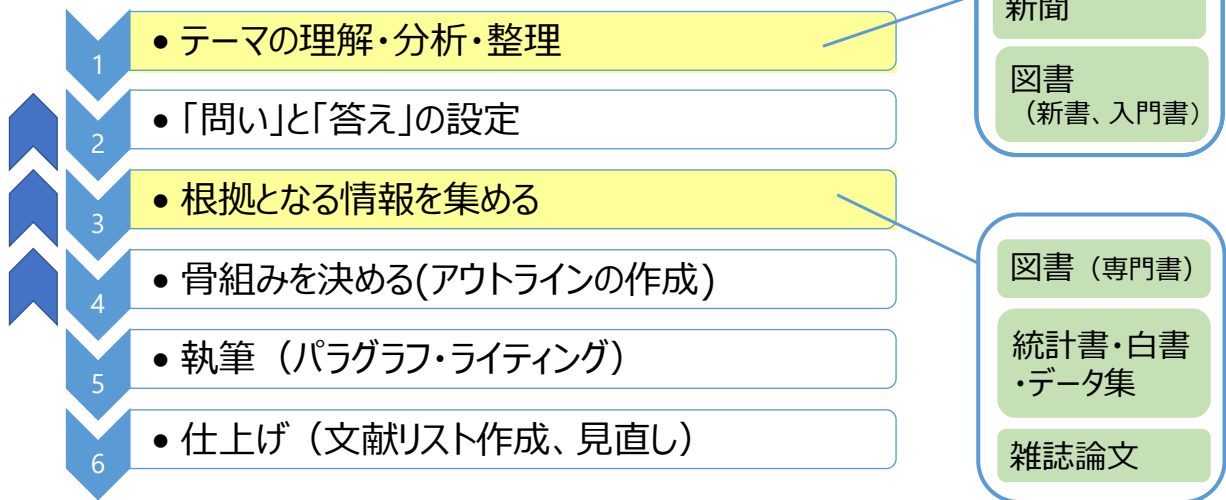
**■第1章 レポートとは**

**■第2章 レポート作成における資料の種類と選択**

**■第3章 図書館資料の探し方**

第2章では、レポート作成における資料の種類と選び方について学んでいきます。

# レポート作成の流れと資料の種類



(参考：堀一成・坂尻彰宏 『阪大生のためのアカデミック・ライティング入門』第4版, 大阪大学全学教育推進機構, p. 7.)

第1章の動画で、レポート作成の流れのステップ1と3では情報収集が重要であることを確認しました。

この章では、その中でも  
ステップ1「テーマの理解・分析・整理」をする際に役立つ「参考図書」と「新書・入門書」、  
ステップ3「根拠となる情報を集める」際に役立つ「専門書」「統計書・白書・データ集」「雑誌論文」、  
について詳しく学んでいきます。

まずは参考図書について学びましょう。

## 参考図書

高齢化社会って  
具体的には…?



- 辞書、事典、ハンドブック、便覧など
- 用語や概念について、定義・歴史的経緯・現状などが載っている  
→言葉や事柄について基本的な情報を確認したいときに活用！

「参考図書」はあまり聞き慣れない言葉かもしれませんが、「辞書」や「事典」などのことです。その他に「ハンドブック」「便覧」などと呼ばれるものもあります。

参考図書には、用語や概念について、定義・歴史的経緯・現状などが載っています。したがって、よく知らない言葉や事柄について基本的な情報を確認したいときに役に立ちます。

例えば、授業で「高齢化社会についてレポートを書きなさい」という課題が出されたとしましょう。

レポート作成の流れに従って、まずはテーマを理解するところから始めます。

高齢化社会がどのような状態を表すのかがわからなければ、参考図書で定義を確認してみましょう。

今回は『世界大百科事典』を引いてみます。

## 高齢化社会

人口構造が高齢化していく状態にある社会をいう。人口の高齢化を示す指標はいろいろあるが、通常は総人口に占める高齢（65歳以上）人口（65歳以上人口、老年人口ともいう）の割合を示す老年人口の年齢構造係数（高齢人口比率）とか、生産年齢人口（15-64歳人口）に対する老年人口の割合を指数化した老年人口指数などがよく使用される。人口高齢化の原因は、その社会の人口が人口移動の無い封鎖人口である限り、出生率、死亡率の低下がある程度維持された結果とされている。…（中略）

**[高齢化する日本の社会]**日本の高齢化社会の始期をいつごろとするかについては必ずしも一致した見解があるわけではないが、総人口に占める高齢（65歳以上）人口の割合が7%台になった1970年ごろを始期とする主張が一般的である。…（中略）

⇒人口：老人福祉：老年学（三浦文夫）

（参考：平凡社編（2007）『世界大百科事典』改訂新版，平凡社，第10巻，p. 72.）

このように、高齢化社会について詳細な定義が書かれていることがわかります。さらに、定義の下には、[高齢化する日本の社会]と題の付いた関連記事が載っています。

また、末尾には、「人口」「老人福祉」「老年学」といった関連するキーワードが載っています。

## 参考図書

- 辞書、事典、ハンドブック、便覧など
- 用語や概念について、定義・歴史的経緯・現状などが載っている  
→言葉や事柄について基本的な情報を確認したいときに便利！

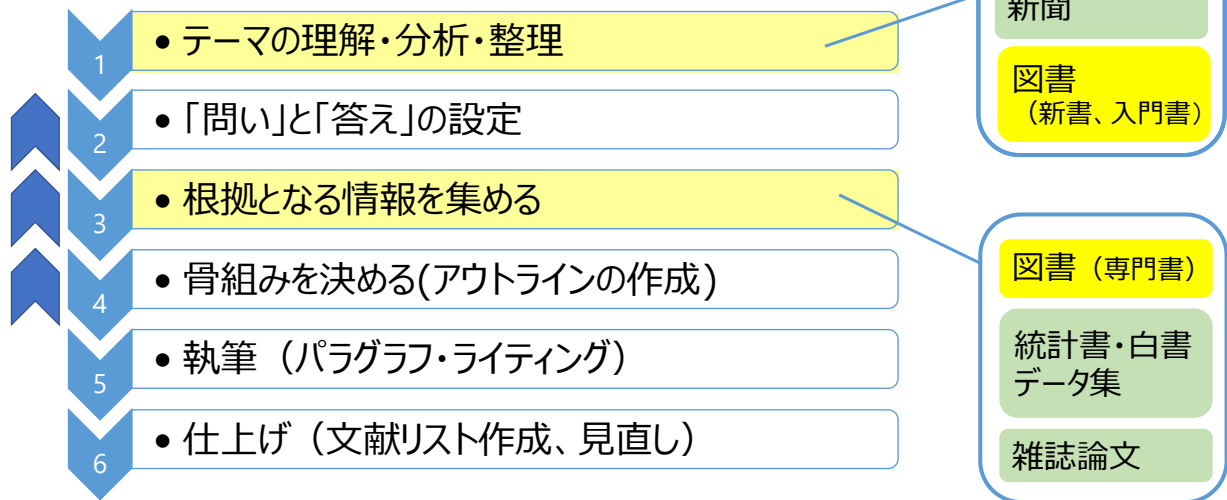
### 参考図書を調べると...

- 基本的な情報を確認し、曖昧な知識を訂正できる
- 今後の情報探索に役立つキーワードや関連テーマを発見できる

このように、参考図書を調べることにより、基本的な情報を確認し、曖昧な知識を訂正できます。

不正確なことをレポートに書かないように、しっかりと確認しましょう。  
また、今後の情報探索に役立つキーワードや関連テーマを発見できます。

# レポート作成の流れと資料の種類



(参考：堀一成・坂尻彰宏 『阪大生のためのアカデミック・ライティング入門』第4版, 大阪大学全学教育推進機構, p. 7.)

次は、「図書」について学びましょう。

# 図書

- あるテーマに関して情報が**まとめられた著作物**
- 大学図書館にあるものは基本的に「**学術書**」

まずはシラバスで教科書や参考文献に指定されている資料を図書館で探してみよう！



## ■ 入門書・概説書

テーマを理解する上で重要な知識・情報が体系的にまとめられている

## ■ 新書（専門家が書いたもの）

テーマに関する情報がコンパクトにまとめられている

ステップ1  
テーマの理解・分析・整理

## ■ 専門書・研究書

より絞られたテーマについて、研究の成果がまとめられている

ステップ3  
根拠となる情報を集める

図書とは、あるテーマに関して情報がまとめられた著作物のことです。図書には小説やビジネス書など様々な種類がありますが、大学図書館が集めているのは基本的に「学術書」と呼ばれるものです。学術書とは、学問的な内容を扱った図書のことです。

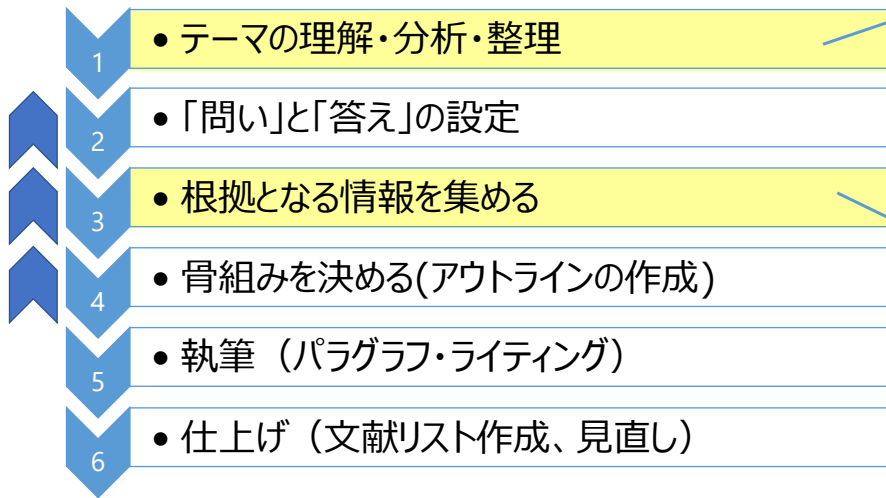
学術書の中でも、「入門書・概説書」と呼ばれるものには、テーマを理解する上で重要な知識や情報が体系的にまとめられています。また、専門家が書いた新書には、テーマに関する情報がコンパクトにまとまっています。

これらの図書は主にステップ1「テーマの理解・分析・整理」で役に立ちます。特に、授業のシラバスで教科書や参考文献として指定されているものは、その授業で必要な知識を学ぶのに適しているので、積極的に活用しましょう。図書館では、シラバスに掲載されている資料を集めているので、まずは図書館にないか探してみてください。

一方、学術書の中でも、「専門書・研究書」と呼ばれるものには、より絞られたテーマについて、研究の成果がまとめられています。専門書や研究書は主にステップ3「根拠となる情報を集める」で活用することができます。



# レポート作成の流れと資料の種類



参考図書

新聞

図書  
(新書、入門書)

図書 (専門書)

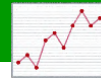
統計書・白書  
・データ集

雑誌論文

(参考：堀一成・坂尻彰宏 『阪大生のためのアカデミック・ライティング入門』第4版, 大阪大学全学教育推進機構, p. 7.)

次は、ステップ3で役に立つ「統計書・白書・データ集」について学びましょう。

# 統計書・白書・データ集



- **統計書**

社会・経済状況や人々の意識など、さまざまな統計調査をまとめたもの

- **白書**

政府や各省庁が現状・施策・課題・展望などを国民に向けて解説する報告書。統計が収録されていることが多い

- **自然科学・工学系のデータ集**

自然科学・工学系の研究・分析・観測成果をもとに判明しているデータがまとまっている

統計データを客観的な根拠として用いると、レポートの説得力が増します。自分で調査するのは大変なので、まずは統計書・白書などを探してみましょう。

「統計書」とは、社会や経済の状況や人々の意識など、さまざまな統計調査をまとめたものです。

「白書」とは、政府や各省庁が現状・施策・課題・展望などを国民に向けて解説する報告書です。統計が収録されていることが多いです。

また、類似の資料に「自然科学や工学系のデータ集」があります。自然科学・工学系分野の研究データがまとまっています。

試しに、内閣府が出している『高齢社会白書』を見てみましょう。

# 第1章

## 高齢化の状況

### 第1節 高齢化の状況

#### 1 高齢化の現状と将来像

##### (1) 高齢化率は29.1%

我が国の総人口は、令和5年10月1日現在、1億2,435万人となっている。

65歳以上人口は、3,623万人となり、総人口に占める割合（高齢化率）も29.1%となった。

65歳以上人口を男女別に見ると、男性は1,571万人、女性は2,051万人で、性比（女性人口

100人に対する男性人口）は76.6であり、男性対女性の比は約3対4となっている。

65歳以上人口のうち、「65～74歳人口」は1,615万人（男性773万人、女性842万人）で総人口に占める割合は13.0%となっている。また、「75歳以上人口」は2,008万人（男性799万人、女性1,209万人）で、総人口に占める割合は16.1%であり、65～74歳人口を上回っている（表1-1-1）。

表1-1-1 高齢化の現状

	総人口	令和5年10月1日	
		数	率
総人口	12,435	6,049	6.38
人口	65歳以上人口	3,623	29.1
	65～74歳人口	1,615	13.0
	75歳以上人口	2,008	16.1
	75～84歳人口	1,237	10.0
	85～94歳人口	602	4.8
95歳以上人口	68	0.5	
15～64歳人口	7,395	59.3	
15歳未満人口	1,417	11.4	
総人口	100.0	100.0	100.0
構成比	65歳以上人口（高齢化率）	29.1	26.0
	65～74歳人口	13.0	12.8
	75歳以上人口	16.1	13.2
	75～84歳人口	10.0	9.6
	85～94歳人口	4.8	3.4
95歳以上人口	0.5	0.2	
15～64歳人口	59.3	62.0	
15歳未満人口	11.4	11.0	

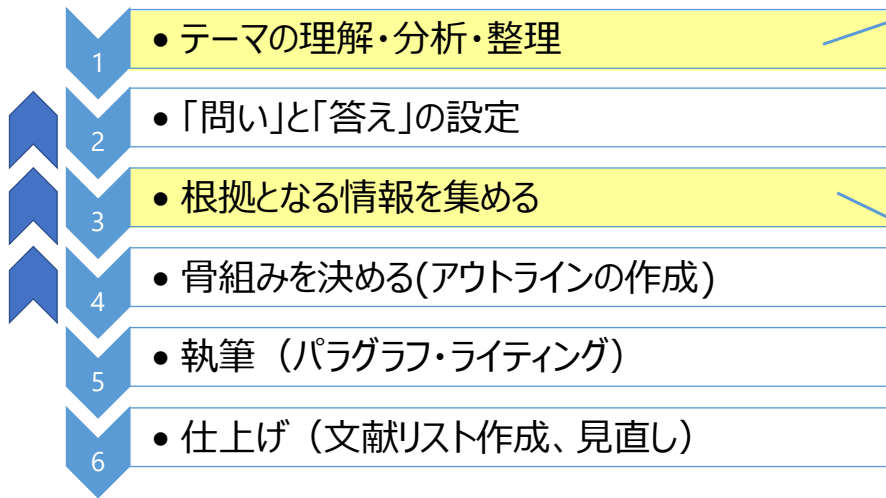
資料：総務省「人口推計（令和5年10月1日）（速報版）」  
（注）「性比」は、女性100人に対する男性人口  
 （注2）「性比」の欄で、見当がつかない場合は「-」と表示しない場合があります。

出典：内閣府編（2024）『令和6年版高齢社会白書（全体版）』

([https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2024/zenbun/06pdf\\_index.html](https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2024/zenbun/06pdf_index.html))(2024年10月29日閲覧)。

このように、『高齢社会白書』では、日本における高齢化率など、高齢化の状況について具体的なデータが示されています。  
 また、『高齢社会白書』のように公的機関が出しているものは、冊子だけではなくインターネットでも公開されていることがよくあります。

# レポート作成の流れと資料の種類



参考図書

新聞

図書  
(新書、入門書)

図書 (専門書)

統計書・白書  
データ集

雑誌論文

(参考：堀一成・坂尻彰宏 『阪大生のためのアカデミック・ライティング入門』第4版, 大阪大学全学教育推進機構, p. 7.)

次は、ステップ3で役に立つ「雑誌論文」について学びましょう。

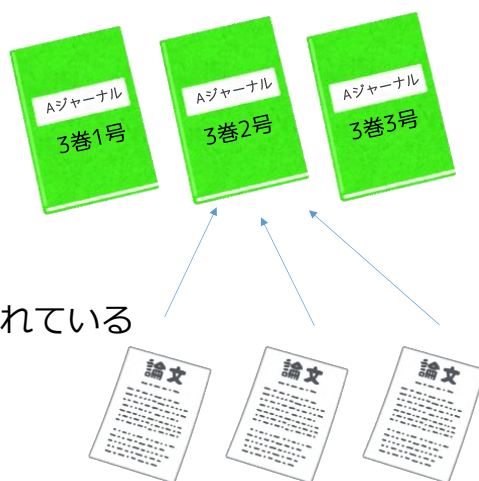
# 雑誌論文

## 雑誌とは

- 定期的に発行される出版物
- 巻号の数字が積み重ねられていく

## 雑誌論文とは

- 学術雑誌に掲載されている論文
- 学術雑誌の1つの巻号に複数の論文が掲載されている
- 最新の研究成果に触れられる
- 電子ジャーナルも活用！



まず、雑誌とは、定期的に発行される出版物のことです。発行されるたびに、何巻何号といった数字が積み重ねられていきます。

雑誌論文とは、「学術雑誌」に掲載されている論文のことです。大学図書館が持っている雑誌のほとんどがこの種類の雑誌になります。学術雑誌の一つの巻号には、一般的に複数の著者の書いた論文が載っています。

研究者が生み出した研究成果は、まずは論文として学術雑誌で発表されることが一般的です。そのため、最近発行された雑誌を読むことで、まだ図書としてまとまっていない、新しい研究成果に触れることができます。

また、現在では、印刷された紙の雑誌ではなく、インターネット上で読める電子ジャーナルと呼ばれる形態の雑誌が主流となってきています。無料で公開されている電子ジャーナルもありますが、大阪大学がお金を払って購読しているからこそ皆さんが使えるというものも、多くあります。ぜひ在学中に活用してください。

雑誌の探し方については第3章で紹介します。

# 情報の信頼性

## ・参考図書・図書・雑誌

→ 編集・出版の過程があるため、比較的信頼性が高い。

## ・インターネット上の情報

→ 誰でもすぐに発信できるため、注意が必要。

1. 誰が発信しているか（“.go.jp”など、サイトのドメインにも注目）
2. 根拠に基づいて書かれているか（引用や出典が明記され、読者が検証できるか）

次に、情報の信頼性のお話をしたいと思います。

一般的に、参考図書や図書、雑誌については、出版される前に様々な人にチェックされるため、比較的信頼性が高いとされます。

一方、インターネットでは、誰でもすぐに情報を発信できるため、信頼性について特に注意が必要です。

たとえば、政府が公開している統計データであれば信頼性は高いと言えますが、個人が書いているブログなどは、専門家ではない人がよく調べずに書いた情報である可能性があります。

インターネット上の情報の信頼性を判断するポイントは2つあります。

1つ目は誰がその情報を発信しているかを意識することです。サイトのドメインを見ると、情報の発信者がある程度判断することができます。たとえば、URLの最後が「.go.jp」となっている場合、「go」は「government」を表しているの、日本の政府機関が発信している情報であることがわかります。

2つ目のポイントは、その情報が根拠に基づいて書かれているかを確認することです。引用や出典が示されていない場合は、根拠に基づいて書いていると判断できません。これはインターネット上の情報に限らない話です。根拠のあるなしを見極め、必要に応じて引用元の情報もチェックする習慣を付けましょう。

# 情報の信頼性：テキスト生成AIについて

- 過去の膨大な素材を学習し、テキストを生成

- レポート作成に役立つツールとなる可能性

検索キーワード案、客観的なコメント 等

- ただし、生成される情報の信頼性には要注意

懸念の例：無意味 / 誤ったコンテンツを真実であるかのように生成する

幻覚 (偽情報)、バイアス、著作権侵害、個人情報漏洩 etc.

AIが生成したコンテンツをそのままレポートの根拠にすることはできない

阪大Webサイト [「生成AI \(Generative AI\) の利用について」](#)

阪大SLiCSセンター・全学教育推進機構 [「生成AIに関するリンク集」](#)

また、2022年夏頃から、人間の求めに応じて画像やテキストなどを生成するAIツールが広く普及しました。

皆さんの中にも、テキスト生成AIであるChatGPTを使ったことがあるという方もいらっしゃるかもしれませんね。

ChatGPTは、インターネット上の膨大な量のテキストにより訓練されたAIモデルを利用したサービスで、まるで対話するようにAIに質問や命令を投げかけることができます。

検索キーワードの候補を挙げてもらったり、レポートの構成に対して客観的なコメントを求めたりと、使い方を工夫すれば、AIはレポートの作成を手助けしてくれる強力なツールになるでしょう。

ただし、生成される情報の信頼性には、大いに注意が必要です。

どのような質問にも整った文章で答えが返ってくるのでつい信じてしまいそうになりますが、それらの回答は明確な根拠を参照して生成されたものではありません。

また、技術上の制約から、倫理的に問題のある情報や、既存の社会的バイアスを強化する情報が生成されてしまう可能性も否定できません。

参考リンクに掲載している資料では、生成AIのメリットと共に、これらの様々な懸念と実例が指摘されています。

以上の懸念から、AIが生成したコンテンツをそのままレポートの根拠とすることはできません。

なお、生成AIを利用する際には、大阪大学のWebサイトで公開されている「生成AI（Generative AI）の利用について」をご一読ください。

スチューデント・ライフサイクルサポートセンターと全学教育推進機構が公開している「生成AIに関するリンク集」にも、生成AIを使う時に役立つ様々な資料が載っています。

参考資料：『生成AI（Generative AI）の倫理的・法的・社会的課題（ELSI）論点の概観：2023年3月版』 <https://hdl.handle.net/11094/90926>



第2章の動画はこれで終了です  
確認テスト1に進んでください

第2章 おわり (ナレーション VOICEVOX:波音リツ)

第2章の動画はこれで終了です。  
確認テスト1に進んでください。